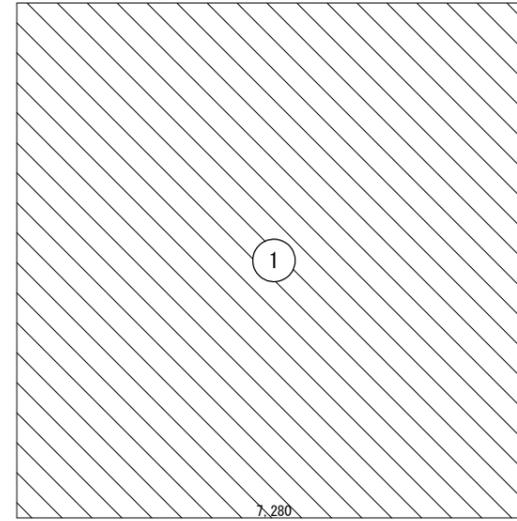
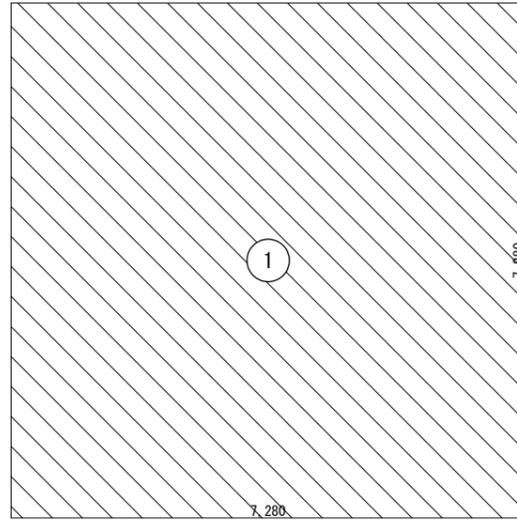
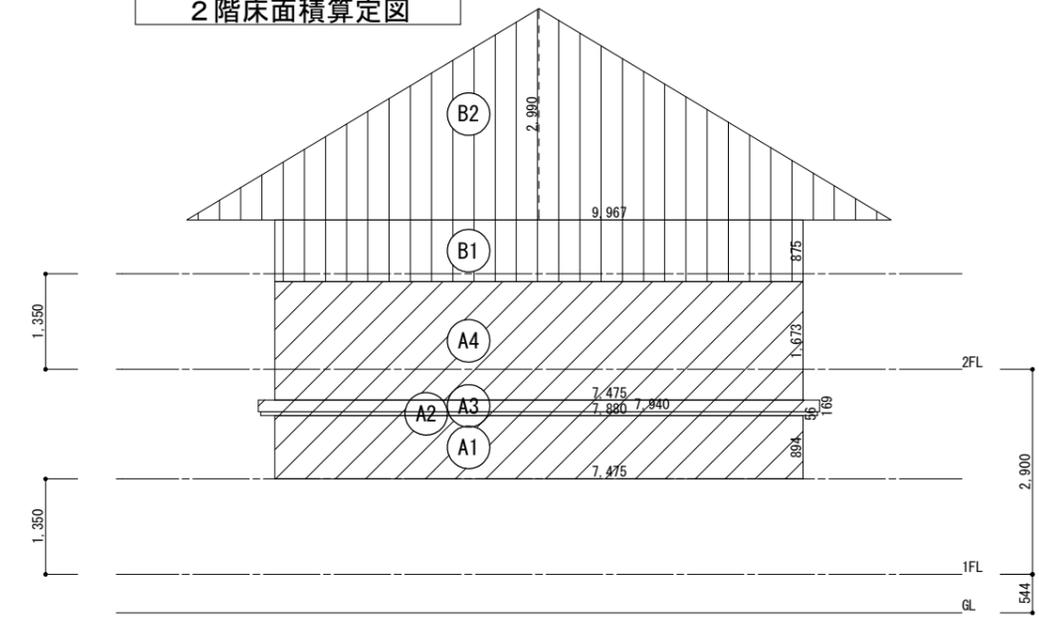
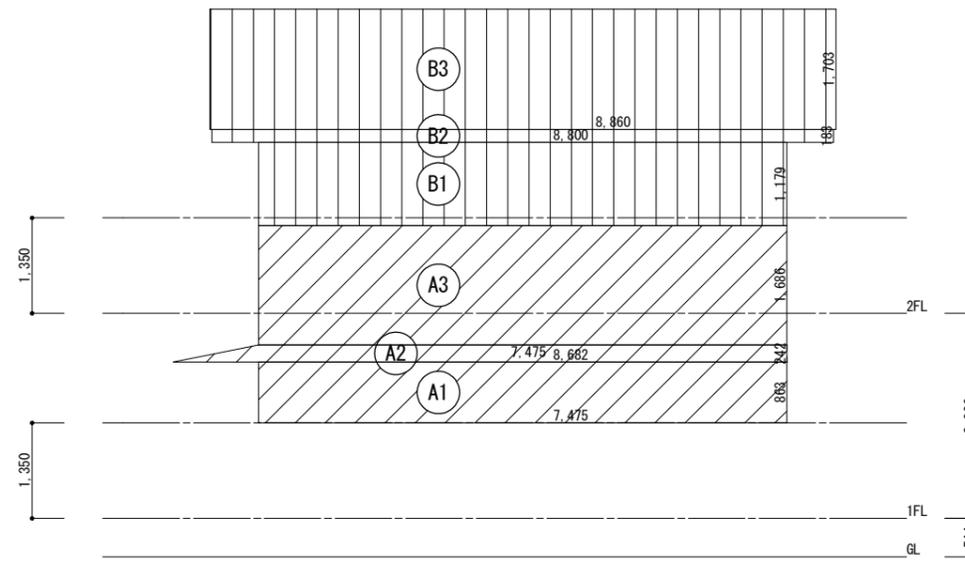


建物諸元	
建物名称	スタイルデザイン (土間) 新築工事 (片流)
平面単位モジュール	910.0
階数	2
屋根	重い屋根
多雪区域	外
最深積雪量 (m)	1.00
地震地域係数 Z	1.0
地域基準風速 Vo (m/s)	30
基準法の床面積 m <sup>2</sup>	
1階	53.00
2階	53.00
延床面積 m <sup>2</sup>	106.00
性能表示の壁量計算用床面積 m <sup>2</sup>	
1階	53.00
2階	53.00
屋根勾配	0.05
立面上的屋根厚さ	180.0
階高 mm	
1階	2900.0
2階	2691.0
軸組階高 mm	
1階	2900.0
2階	2730.0
横架材間内法寸法 mm	
1階	2715.0
2階	2850.0
天井高 mm	
1階	2400.0
2階	2400.0
開口高 mm	
掃出・ドア	2000.0
腰高窓 (大)	1400.0
腰高窓 (中)	1000.0
小窓	600.0
目標等級	
耐震等級 (倒壊防止・損傷防止)	2
耐風等級	1
耐積雪等級	—



1階床面積算定図

2階床面積算定図

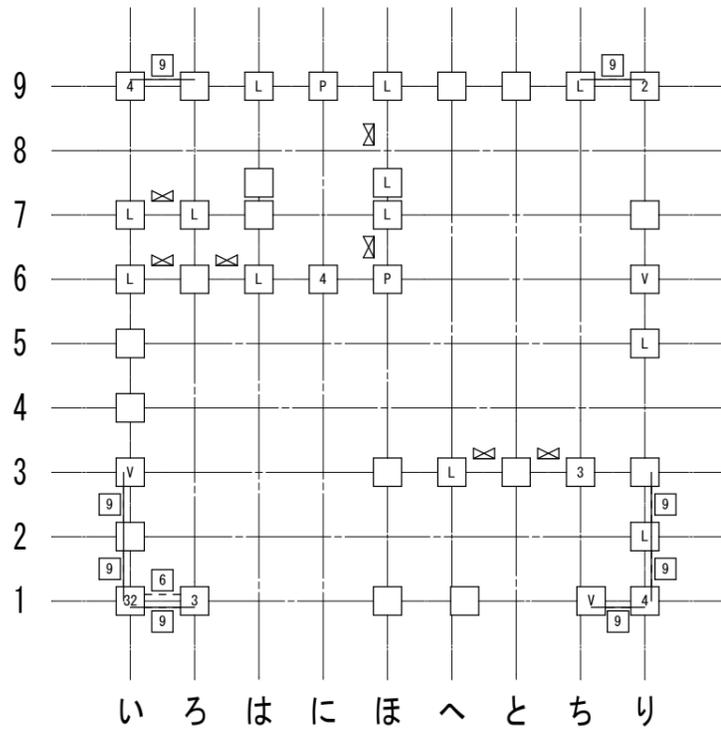


X方向 (東面) 見付面積算定図

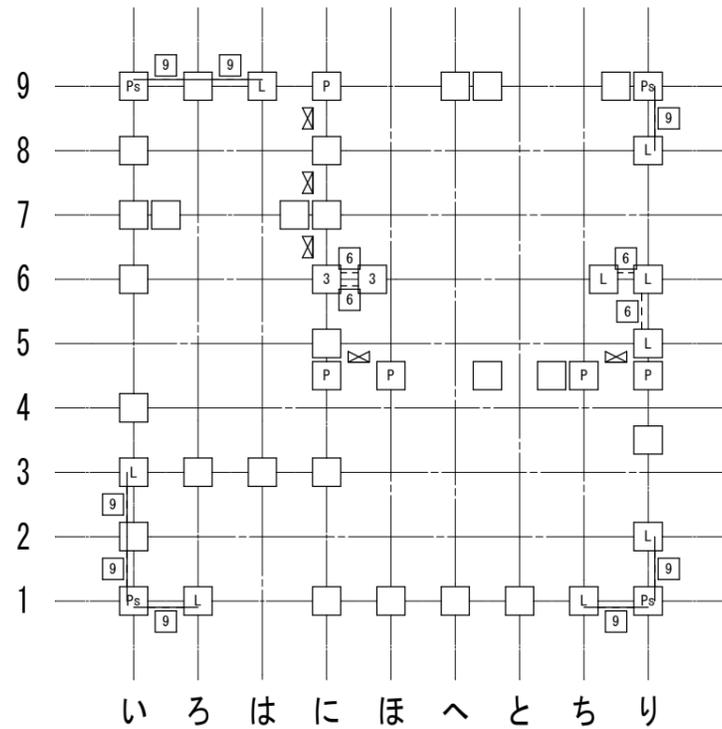
Y方向 (南面) 見付面積算定図

床面積表		単位 m <sup>2</sup>	
階	面積	計	計
2	① 7.280 × 7.280	52.998400	53.00
1	① 7.280 × 7.280	52.998400	53.00

見付面積表		単位 m <sup>2</sup>	
方向	階	面積	累計
X	2	① 7.475 × 1.179	8.813025
		② 8.800 × 0.183	1.610400
		③ 8.860 × 1.703	15.088580
	1	① 7.475 × 0.863	6.450925
		② (8.682 + 7.475) × 0.242 ÷ 2.0	1.954997
		③ 7.475 × 1.686	12.602850
Y	2	① 7.475 × 0.875	6.540625
		② 9.967 × 2.990 ÷ 2.0	14.900665
	1	① 7.475 × 0.894	6.682650
		② 7.880 × 0.056	0.441280
		③ 7.940 × 0.169	1.341860
		④ 7.475 × 1.673	12.505675



1階柱壁伏図



2階柱壁伏図

凡例				
記号	壁の構造(1) 壁の構造(2)	筋かいの構造		倍率
W4	☒	木材45×90たすき掛	4.00	4.00
W6	☒	JAS構造用合板	2.50	2.50
*W9	☒	ダイライト	2.50	2.50

\*は任意の仕様であることを示しています。

接合部凡例				
*接合部凡例はユーザ設定されたものです。				
記号	仕様	N	倍率	
(い)	短ほぞ差し、かすがい打ち	0.00		
(ろ)	N 長ほぞ差し込み栓打ち		0.70	
(ろ)	L L字型金物	0.65	0.70	
(は)	V V字型金物	1.00	1.00	
(は)	T T字型金物		1.00	
(に)	P 羽子板ボルト	1.40	1.40	
(に)	I 短冊金物		1.40	
(ほ)	Ps 羽子板ボルト+スクリュー釘50	1.60	1.60	
(ほ)	Is 短冊金物+スクリュー釘50		1.60	
(へ)	2 10KN用引き寄せ金物	1.80	1.80	
(と)	3 15KN用引き寄せ金物	2.80	2.80	
(ち)	4 20KN用引き寄せ金物	3.70	3.70	
(り)	5 25KN用引き寄せ金物	4.70	4.70	
(ぬ)	32 15KN用引き寄せ金物×2	5.60	5.60	
(る)	J1 腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、短冊金物		1.90	
(を)	J2 腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、短冊金物×2		3.00	

床・小屋梁の継手・仕口判定表					単位 m			
階	方向	通り	耐力壁線間距離	平均存在床倍率	床・小屋梁の継手・仕口			
					必要接合部倍率	継手・仕口	存在接合部倍率	判定
2	X	1-4.5	3.185	0.700	0.700	J1	1.900	OK
		4.5-6	1.365	1.500	0.700	J1	1.900	OK
		6-9	2.730	1.500	0.758	J1	1.900	OK
	Y	い-に	2.730	0.700	0.700	J1	1.900	OK
に-り		4.550	1.500	1.263	J1	1.900	OK	
1	X	1-3	1.820	0.937	0.700	J1	1.900	OK
		3-6	2.730	3.000	0.700	J1	1.900	OK
		6-9	2.730	3.000	0.700	J1	1.900	OK
	Y	い-ほ	3.640	2.250	0.700	J1	1.900	OK
		ほ-り	3.640	2.625	0.700	J1	1.900	OK

筋かいの種類に応じた筋かいの端部の接合部の仕様		
筋かいの種類	接合部の仕様(構造方法)	
イ 鉄筋φ9	柱又は横架材を貫通し、三角座金を介してナット締め、又は鋼板添え板を用い鋼板を柱及び横架材にCN90, 8本平打ち	
ロ 筋かい:15×90	柱・横架材を欠き込み、柱・横架材双方に対してN65, 5本平打ち	
ハ 筋かい:30×90	鋼板添え板t=1.6mmを筋かいに対してボルトφ12及びCN65, 3本平打ち、柱に対してCN65, 3本平打ち、横架材に対してCN65, 4本平打ち。筋かいプレートBP同等品	
ニ 筋かい:45×90	鋼板添え板t=2.3mmを筋かいに対してボルトφ12及びスクリュー釘φ4.5L50, 7本平打ち、柱及び横架材に対してスクリュー釘φ4.5L50, 5本平打ち。筋かいプレートBP-2同等品	
ホ 筋かい:90×90	柱又は横架材にボルトφ12mmを用いて一面剪断接合	

胴差と通し柱の接合部の仕様		
胴差と通し柱の条件	仕口	
T1 通し柱の片側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、羽子板ボルト、かね折り金物又は同等以上の仕口	
T2 通し柱の両側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、短冊金物又は、同等以上の仕口で胴差相互を緊結	
T3 通し柱と胴差の接合部の近くに90×90以上の筋かいが来る場合(通し柱が建物の出隅にあるか、筋かい壁が外壁と直交して接する場合)	胴差を通し柱に、15KN用引き寄せ金物を水平に用いて緊結	